

科目名	ソーシャルワーク論	2単位
担当者	田中 千枝子(非常勤教員)	
テーマ	ソーシャルワークを理論や方法論として、事例検討やロールプレイなどの実践を通じて理解する	
科目のねらい	<p><キーワード> ①ソーシャルワーク ②実践理論 ③社会福祉方法論 ④マイクロ・メゾ・マクロ実践 ⑤ 専門性</p> <p><内容の要約> ソーシャルワーク実践の基盤となる考え方や方法を示すソーシャルワーク実践理論やアプローチの基本的知識と支援観(倫理観)を得ることによって、とくにマイクロからメゾレベルの領域のソーシャルワークの専門性の確認を行う。また実践事例を分析し、グループワークにより、コミュニケーションをはかる体験をすることで、ソーシャルワークの価値にもとづく知識・技術を検証し、さらにそれらを専門家のコンピテンスとして身につけるための集団学習およびセルフワークによる学修を行う。 方法としては、実際の事例に対して様々な教育手法により実践理論・アプローチを適用し、参加型授業によって、個人・集団・地域の一定の視点からの多様な事例の事実を観察し、理解し、分析・解釈し、評価するといった段階を経て、ソーシャルワーク実践の一連の流れを体験する。</p> <p><学習目標> 人の人生/生活に着目し、社会的枠組みにおいて福祉的課題を設定し、その科学的視点を身に着けることによって、ソーシャルワークの実践方法を理解し、組織・地域・制度に対して働きかけることができる。ソーシャルワーク理論や展開過程を問題解決に応用する能力として技能や表現を身につけ、多職種に対するコミュニケーションやプレゼンテーション等のマネジメントに役立てることができる。</p>	
授業の進め方	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 SWの実践理論概論講義 第 3 回 援助観価値観の理論的変遷、事例による討論 第 4 回 統合理論の流れの概観、事例検討 第 5 回 バイオ・サイコ・ソーシャルモデル、ロールプレイ 第 6 回 エコシステム理論と時間:空間 エコマップとタイムライン作成 第 7 回 ピンカスミナハンの4つのシステム論、地域における多職種連携を意識したエコマップ作成、組織・地域 第 8 回 GWに関する基礎理論概観、チームアプローチ協働の型 ロールプレイ 第 9 回 グループ力動論、司会の技術 事例検討、ロールプレイ KJ 法によるグループワーク 第 10回 グループワークのロールプレイ 課題に対するプレゼンテーション 第 11回 場の理論、地域福祉と評価手法 第 12回 エンパワメントエバリュエーション法、ワークショップのロールプレイ 第 13回 ソーシャルワークリサーチ、社会調査、介入計画作成 第 14回 ミクロ・メゾ・マクロに展開するソーシャルワークとマネジメント、レポート 第 15回 グループ発表 まとめ レポート作成	
事前学習の内容 学習上の注意	○指定したテキストや資料や課題を事前に読んで学習し考えておくこと。 ○ディスカッションやロールプレイなど演習形式を多用するので、積極的に参加すること。 ○毎回授業の最初に前回授業内容に係る振り返りを実施するので、復習しておくこと。 ○毎回の授業終了時に、次回の資料や論文を配布するので読んでおくこと。 ○社会福祉学での基礎的な理論に関する知識を確認しつつ講義する。	
本科目の 関連科目	医療・福祉マネジメント研究科「専門演習Ⅰ・Ⅱ」の考え方や論文作成の枠組み作成に寄与することができる。なお本科目は「認定社会福祉士」の資格対象科目として認定されている。	
テキスト	相澤譲治 監修『新版・ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ【基礎編】』みらい 2021年	
参考文献	渡部律子『福祉専門職のための統合的・多面的アセスメント』ミネルヴァ書房 2020年 ブトゥリム,Z『ソーシャルワークとは何か』川島書店 1986年 その他 授業中に提示	
成績評価 方法と基準	授業2限に1回ごとのセルフワークによる課題の提出(20%) ディスカッション・ロールプレイへの参加度(20%)、 1日ごと課題レポート3回提出(60%)の方法で評価をおこない、全体で60%以上を合格とする	

科目名	地域福祉論(隔年開講科目、2023 年度開講)	2単位
担当者	川島 ゆり子	
テーマ	包括的支援体制と地域福祉	
科目のねらい	<p><キーワード> コミュニティワーク、福祉コミュニティ、コミュニティソーシャルワーク、社会参加、コミュニティケア</p> <p><内容の要約></p> <p>住み慣れた地域で誰もが安心して暮らし続けることを支えるためには、人の暮らしづらさに寄り添い地域生活課題の解決をめざしていく個別支援と、人の暮らしの基盤となる地域づくりを連動させていく必要がある。また地域福祉を推進する実践者は、これらの地域を基盤とする社会福祉援助技術の理解だけでなく、それらの支援を地域の中でシステムとして運営していくための制度政策のプランニング・運営への理解も深めていくことが求められている。個別支援の理念としての「ケア倫理」、個別支援と地域支援を連動させる援助技術としての「コミュニティソーシャルワーク」、地域福祉の今日的な制度政策の基盤としての「包括的支援体制」。この3つを講義の中核とし実践面と政策面の双方から地域福祉へのアプローチを試みる。</p> <p><学習目標></p> <p>①地域福祉の理論・政策・実践・技術を体系的に学ぶことができる。 ②地域福祉計画の策定および推進方法を具体的に学ぶことができる。 ③コミュニティソーシャルワークの実践および人材養成のあり方について学ぶことができる ④制度のはざまに陥るような社会的孤立の状況にあるケースについて、アセスメントからプランニングまでを事例に基づき検討することができる。 ⑤重層的支援体制整備事業の実施および、地域福祉計画策定の具体的な事例を学ぶことができる。 ⑥コミュニティケアの価値・理念について学ぶことができる</p>	
授業の進め方	<p>1講 社会的孤立と地域福祉 2講 地域福祉の理論と構成 3講 コミュニティソーシャルワークのプロセスと総合相談への展開 4講 個別支援のネットワーク化、機関連携とソーシャル・キャピタル 5講 個別課題の普遍化と福祉文化の醸成 6講 ソーシャルアクションと資源開発 7講 地域アセスメントの視点と手法(量的調査・質的調査) 8講 ボランティア活動 その理念と意義 9講 地域福祉の人材養成の実際 10講 包括的支援体制整備に向けた政策的動向 11講 地域福祉計画の策定プロセスとその課題 12講 社会福祉協議会の組織の歴史と運営 13講 社会福祉法人の社会貢献 NPO 法人の地域活動 14講 参加支援と地域づくり 重層的支援体制事業の相互関連性 15講 コミュニティケアとケアの倫理</p>	
事前学習の内容 学習上の注意	この講義は、パワーポイントを用いた講師による情報伝達と、参加者によるディスカッションの双方向により構成されます。テーマごとに事前にテーマに関する情報を書籍や自分自身の実践現場である地域の情報から収集し、自分自身の地域でどのように展開していくかということ意思するようにしてください。	
本科目の 関連科目	私の研究テーマと方法 社会福祉政策論 プログラム評価論	
テキスト	川島ゆり子他『地域福祉論』ミネルヴァ書房 2017 年	
参考文献	川島ゆり子『地域を基盤としたソーシャルワークの展開』ミネルヴァ書房 2014 年	
成績評価 方法と基準	中間レポート2回(10点 A4×1枚)、最終レポート(50点×1回 A4×3枚)、講義・演習等での発言など出席の姿勢(30点)により評価し、総合評価 60点以上を合格とする。	

科目名	研究方法概論	2単位
担当者	末盛 慶	
テーマ	研究を行う上で必要となる調査方法について理解を深める。	
科目のねらい	<p><キーワード> 研究方法 質的方法 量的方法 研究課題 仮説</p> <p><内容の要約></p> <p>本講義では、研究を行う上で必要となる研究方法を学ぶ。質的方法と量的方法の双方を扱う。質的方法に関しては、質的方法の特徴、質的研究における研究課題の定め方、データ収集の仕方、質的データの分析方法、質的分析の結果の示し方について解説する。量的方法に関しては、調査デザインの作成、質問紙の作り方、対象者の抽出方法、調査の実施方法、データの作成と分析方法を学ぶ。SPSSを用いた分析演習も複数回行う(※一部の回を一般公開する場合があります)。</p> <p><学習目標></p> <p>①質的および量的方法の概要を理解する。②質的および量的データのとり方を理解する、③質的および量的データの分析の仕方を理解する。</p>	
授業の進め方	<p>第1回 研究方法－質的方法と量的方法</p> <p>第2回 質的方法の概要</p> <p>第3回 質的データの取り方Ⅰ－インタビュー調査を中心に</p> <p>第4回 質的データの取り方Ⅱ－観察法・エスノグラフィー</p> <p>第5回 質的データの分析法Ⅰ－グラウンデッド・セオリー・アプローチ</p> <p>第6回 質的データの分析法Ⅱ－修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ</p> <p>第7回 質的データ分析の結果の示し方</p> <p>第8回 量的方法の概要</p> <p>第9回 質問紙の作成・配布・回収</p> <p>第10回 データ入力と基本集計</p> <p>第11回 SPSSを用いた量的分析Ⅰ－単純集計と変数の再構成の仕方</p> <p>第12回 SPSSを用いた量的分析Ⅱ－クロス集計とカイニ乗検定</p> <p>第13回 SPSSを用いた量的分析Ⅲ－平均値の比較に関する分析</p> <p>第14回 SPSSを用いた量的分析Ⅳ－相関分析と回帰分析</p> <p>第15回 混合研究法</p>	
事前学習の内容 学習上の注意	以下の参考文献のうち、中島洋『初学者のための質的研究 26 の教え』と、須藤康介・古市憲寿他『新版文系でもわかる統計分析』を読みながら、本講義を受講すること。	
本科目の 関連科目	私の研究テーマと研究方法	
テキスト	テキストは用いません。毎回レジュメを配布し、講義と演習を行います。	
参考文献	<p>岩田正美・中谷陽明他『社会福祉研究法』有斐閣 2006年</p> <p>木下康仁『ライブ講義 M-GTA』弘文堂 2007年</p> <p>グラハム・R・ギブズ『質的データの分析』新曜社 2017年</p> <p>向後千春・富永敦子『統計学がわかる』技術評論社 2007年</p> <p>戈木クレイグヒル滋子『質的研究方法ゼミナール(増補版)』医学書院 2008年</p> <p>佐藤郁哉『質的データ分析法』新曜社 2008年</p> <p>須藤康介・古市憲寿・本田由紀『新版文系でもわかる統計分析』朝日新聞出版 2018年</p> <p>高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書 1979年</p> <p>中島洋『初学者のための質的研究 26 の教え』医学書院</p> <p>パンチ,K.F.『社会調査入門:量的調査と質的調査の活用』慶応義塾大学出版会 2005年</p> <p>村瀬 洋一・高田 洋他『SPSSによる多変量解析』オーム社 2007年</p>	
成績評価 方法と基準	期末レポート(50点)、授業内容に関する受講生のコメント・毎回提出(50点)により評価し、総合評価60点以上を合格とする。	